3/24 明治安田生命と包括連携協定締結

同社はこれまで県や各市町村と同様の協定を締結しており、今回で11番目となります

本市と明治安田生命保険相互会社は、健康増進やSDGsの推進などに関する包括連携協定を３月10日付で締結しました。連携事項は、ワーク・ライフ・バランスの推進や高齢者支援など計14項目。本市が今後、施策を進める際に、同社もネットワークや情報などを活用し、協力して取り組んでまいります。24日は同宮崎支社の小島啓(けい)支社長らが市役所を表敬訪問。小島支社長は「健康寿命の延伸や地域活性化などの役に立ちたい」と話していました。

3/25 自衛隊新入隊者を激励

宮崎県防衛協会串間支部と串間市自衛隊家族会は、自衛隊新入隊者の門出を祝う「自衛隊新入隊者激励会」を市役所で行いました。今年度の新入隊者は航空学生や自衛官となる市内出身の６人。激励会には、副市長、航空自衛隊高畑山分屯基地の中嶋明司(あきら)令らが出席し、新入隊者に激励の言葉を贈りました。航空自衛隊防府北基地の航空学生となる江藤悠磨(ゆうま)さんは「将来の日本の平和と安全を守る一人前の自衛官を目指し、串間出身の誇りを胸に精進していきたい」と謝辞を述べました。

自衛隊新入隊者の皆さん

母馬とくつろぐ春駒

3/28 愛らしい春駒誕生

国の天然記念物である野生馬「岬馬」の生息地、都井岬で新しい命が生まれました。この春初めての子馬「春駒」は都井岬内の民宿「海洋荘」の前で発見された男の子。昨年の誕生より10日早く誕生した今年の春駒は、今朝生まれたばかりとは思えないほど元気に走ったり、母馬の母乳を飲んだり、ごろんと寝転がったりとほのぼのとしたかわいらしい姿をお披露目してくれました。今年は約20頭の出産が見込まれています。

3/5 在来ヤマメの保護について考えるシンポジウム

パネルディスカッションを行う岩槻教授ら（右）

福島川に生息する在来ヤマメの保護などについて議論する「九州渓流魚シンポジウム2022in串間」（ふるさとの水辺環境を守る会など主催）が、市総合保健福祉センターで行われました。渓流魚の研究者ら４人が、在来ヤマメの保護、生育環境保全についての事例発表やパネルディスカッションを実施。事例発表では、宮崎大学農学部教授の岩槻幸雄(いわつきゆきお)さんが、福島川上流部のヤマメは日本最南限の個体群であることを紹介。ただ、生息数が極めて少ないため「地元住民や漁協などと連携して保全をしていくことが必要」と訴えました。パネルディスカッションでは、福島川上流部に禁漁区間を設けて、釣り人にキャッチアンドリリースを求めることなどの提案がありました。

3/9 建設業協会女性部と商工会議所女性会が串間中体育館を清掃

汚れを丁寧に拭き取る参加者の皆さん

串間市建設業協会女性部と串間商工会議所女性会は、串間中学校体育館の清掃活動を行いました。卒業式をきれいな体育館で迎えてもらおうと今回初実施。清掃には計17人が参加。体育館の窓ガラスや傘立て、トイレ、正面玄関などを、ぞうきんや新聞紙などを使って丁寧に磨き上げていました。建設業協会女性部の部長であり商工会議所女性会の会員でもある谷口直美(なおみ)さんは「すがすがしい気持ちで卒業してもらいたく清掃を行った。将来の夢に向かって大きく羽ばたいてほしい」と期待を寄せていました。

3/22 スクールバスを使った買い物ツアー

市木地区の地域連携組織設立準備委員会、市社会福祉協議会らは、串間中学校のスクールバスを活用して地区の高齢者をスーパーなどに連れていく買い物ツアーを行いました。同地区には免許返納などで自由に買い物に行けない高齢者が一定数おり、少しでも支援ができないかと、今後の定期的な実施に向けた実証実験の一環で実施。ツアーは同地区内に設定した４カ所の待合場所から参加者28人が乗車。日南市内の衣料品店や食料品店を巡り、参加者同士で話をしながら和気あいあいと買い物を楽しんでいました。同委員会の長野秀明(ひであき)会長は「今後も地区の希望に沿える活動を行っていきたい」と話し、参加者の原裕子(ひろこ)さんは「みんなと話をしながら買い物ができ楽しかった。今後もぜひやってもらえたら」と笑顔で話していました。

地区の生活支援サポーターや民生委員なども参加し、乗降の際などにサポートしていました